

地図帳を地球儀的に使おう —地理的分野の導入—

和歌山県公立中学校教諭



地図帳p.1~3



地球儀

はじめに

学習指導要領 地理的分野 2 内容(1)「世界と日本の地域構成」には、地球儀や地図の活用が明記されている。(2)「地域の規模に応じた調査」においても、さまざまな地図を活用して調査・考察・整理することが必要である。そこで、中学校における地理的分野の学習をはじめに、あたり、地図の活用方法を身につけることが基礎的な技能であると考え、地理的分野の学習の導入として地図を用いた学習を行っている。子どもたちはどこで地図の特徴を感じるだろうか。

実践例

指示 地図帳p.1~3には何が書かれているか。

- ・世界の国や都市の名前がある。
- ・いろいろな種類の地図がある。
- ・縦、横に線が引かれている。 など

《次に地球儀を提示する。》

指示 p.1~3を使って地球儀を作ろう [資料1]。

- ・ぐるっと1周できる。
- ・大西洋が繋がった。
- ・日本の反対側がどこかよくわかった。
- ・円筒形では地球儀のように球にするには大幅に変形しないとできない。

説明 実は地図はうそつきだ。長方形の地図では球である地球儀は作れない。その理由は北極と南極を結ぶ線である経線に注目するだけでも明らかだ。

発問 地図帳p.1~3の地図(ミラー図法)と地球儀を比較して異なるところはどこか。

- ・地球儀が本来の地球の姿に最も近い。
- ・面積・形が違う。
- ・特に南極やグリーンランド。
- ・地球儀では経線が北極・南極に集まっている



[資料1]

が、地図の経線は平行。
など

発問 p.1~3にある地図と地球儀を比較して、地図のよさは何だと思うか。

- ・世界中すべての国や都市が一目でわかる。
- ・国々のおおよその位置関係がわかりやすい。

- ・地球儀では見ることで見ることができない地球の裏側まで見ることができる。 など

説明 先ほど「地図はうそつきだ」といったが、地図帳p.1~3のミラー図法や下部にある正距方位図法、正積図法は、それぞれ目的としている事柄を正確に描く。これらの地図の活用方法を学んでいくと、地球儀では一目でわからない距離関係や面積、時差などが簡単にわかる。今回のように少し工夫して円柱形にすると、大陸はすべて大洋によってつながっていることもわかる。

おわりに

実践例は、地図活用の導入段階における意欲づである。地図を隅々まで観察することで、地球儀との違いに気づき、地図の特徴を学ぼうとする興味関心が一気に高まるのである。

地図は、地球の概要を知るうえで大変便利なものであり、地図帳には様々な図法で描かれた地図が掲載されている。一つの図法では、すべての情報を網羅することができないが、それぞれ地図の特徴を十分理解したうえで、効果的に活用して獲得した知識を統合することができると、地球儀以上に地球本来の姿を多面的に垣間見ることができるとなるのである。